

三原市定住自立圏共生ビジョン(素案)に対する意見内容及び市の考え方について

◆ 意見提出 10 件 8 人 (他計画との重複意見を含む)

※下線は計画書を修正するもの。

u003e

意 見		市の考え方		
1	該当箇所	P14 (ア)地域公共交通の運行状況	該当箇所	P14 (ア)地域公共交通の運行状況
	ビジョン14ページに公共交通の運行状況がまとめられているが、この中に、所要時間を掲載してはどうか。		各地域(支所等)から三原地域(JR三原駅前)までの路線バスの所要時間を記載します。	
2	意 見	市の考え方		
	該当箇所	P2～16 (1)圏域の現状	該当箇所	P2～16 (1)圏域の現状 P21・22 (5)定住自立圏の基本的な考え方
いろいろなデータが掲載されているが、これらのデータが「住み続ける」ために必要なこととどう関係しているのか。		定住自立圏では、市民満足度の向上を図ることをめざし、現在居住している市民のみなさんが住み続けるために必要な取組をまとめています。 まとめる上では、市民満足度調査結果から、市民のみなさんが住み続けるために必要と考えている施策のうち、「重要度が高いにも関わらず、現状の満足度が低いもの」に重点的に取り組むことが満足度向上につながると考え、具体的な取組を整理したところです。 定住自立圏共生ビジョンに掲載している各種データは、上記取組を検討する上で、市の現状と課題を把握するために必要なデータを抽出し掲載しているものです。		
3	意 見	市の考え方		
	該当箇所	P30 ウ 産業振興	該当箇所	P30 ウ 産業振興
定住自立圏構想においては、所得面が課題になると思う。生活が便利になる形での商業や安全・安心などだけではなく、農業を含めて、市民の所得を上げていくという考え方が必要ではないか。		(1)生活機能の強化における「産業振興」の中に、「市民の所得向上に向けた取組」を追加します。		

意見		市の考え方	
4	<p>該当箇所 P34 地域経営推進事業</p> <p>34ページに掲載している「地域経営推進事業」が大きな役割を果たすと考える。 大切なのは、住民主体でこれをつくり、市としてうまく支援することができるかどうかだと思う。 また、おそらく、「地域ビジョン」の中には、交通・防災・産業・観光・福祉など、あらゆることが含まれてくると思うが、地域ごとにカラーは違う。何を重点的に取り組んでいくかという選択をすることが、ビジョンづくりで重要ではないかと思う。それをやらないと結局総花的になってしまう。</p>	<p>該当箇所 P34 地域経営推進事業</p> <p>「地域ビジョン」は、地域でのワークショップを通じて、地域が自ら取り組む内容や行政と一緒に取り組む内容を定めるもので、それぞれの地域のカラーを持ったものであり、移住人口などの目標を掲げ、地域で優先順位を持ち取り組んでいくこととしています。市としてもこの取組をしっかりと支援させていただくこととしております。</p>	
5	<p>該当箇所 P34 地域経営推進事業</p> <p>「住民組織が行うコミュニティビジネス事業数」の指標について、「住民組織による課題解決の取組数」といった指標に変更してはどうか。(コミュニティビジネス事業数を指標にすると手段の目的化が起きてしまうのではないか？また、関係人口など他者と協働する取り組みの可能性をせばめてしまうのではないか？)</p>	<p>該当箇所 P34 地域経営推進事業</p> <p>「住民組織が行うコミュニティビジネス事業数」の指標は、主な事業に掲げる「コミュニティビジネス支援事業」の取組状況を測るための指標として設定したものです。本事業は平成30年度から実施しているため、制度開始段階での指標として設定しているもので、今後の事業展開にあわせて指標のあり方についても研究していきます。 また、コミュニティビジネス事業を進めていくためには、住民組織が他者と協働していくことも重要であると考えております。</p>	
6	<p>該当箇所 P35 中山間地域活性化事業</p> <p>「地域活動が以前より活発化していると感じる中山間地域の住民組織の割合」の指標について、「以前より地域での暮らしに安心感が高まっている」といった指標に変更してはどうか。</p>	<p>該当箇所 P35 中山間地域活性化事業</p> <p>新たな指標として、「以前より地域での暮らしに安心感が高まっている」を加えます。</p>	
7	<p>該当箇所 P35 中山間地域活性化事業</p> <p>中山間地域活性化について、高坂地域でもやっているが、理屈は分かるが、結局その問題を解決・実行する人がいないことが課題なのではないか。一部の人の負担が重い。</p>	<p>該当箇所 P35 中山間地域活性化事業</p> <p>住民組織との連携を通じた地域での話し合いの促進や地域支援員の配置等により、地域活動への参加意識の醸成や活動に参画する人の確保を図り、問題の解決・実行を進めていきます。</p>	

意見		市の考え方	
8	<p>該当箇所 P38 地域公共交通維持充実事業</p> <p>これから高齢者が増えて、運転できない人が増えていくので、今後は徐々に公共のバス便を増やしてほしいです。</p>	<p>該当箇所 P38 地域公共交通維持充実事業</p> <p>公共交通利用者の減少や運行事業者の運転手不足により減便や路線廃止が行われるなど、地域公共交通のサービスを維持することが年々厳しくなっています。しかしながら、高齢者の増加は、移動手段に困る市民が今後増加する可能性を示しており、安心して生活できる環境の確保に向けた対応が必要です。</p> <p>市としては、市民の暮らしを支えている、既存の公共交通サービスの維持を図るとともに、新たな地域へドアツードアで移動可能な乗合タクシーなどの地域コミュニティ交通の導入など、地域内や地域間の移動を可能とする交通体系の維持・充実に引き続き取り組んでまいります。</p>	
9	<p>該当箇所 P40 ICT等新たな技術の活用による生活利便性向上に向けた取組</p> <p>39ページの「ICT等新たな技術の活用による生活利便性向上に向けた取組」については、具体的にはどのようなことをイメージしているのか。</p>	<p>該当箇所 P40 ICT等新たな技術の活用による生活利便性向上に向けた取組</p> <p>北部エリアの基幹産業である農業面でのスマート化や商業面でのキャッシュレス化、教育面でのIT人材の育成、医療面での遠隔診療や交通面での自動運転、防災面での災害予知システムなどを想定し、現在、実施する上での課題や手法などを検討しているところです。</p> <p>具体的な内容の決定後には、事業を追加していく予定です。</p>	
10	<p>該当箇所 全体</p> <p>三原地域に中心市街地があつて、本郷地域にサブ拠点があり、周辺地域をつなぐという考え方は、正しく経済合理性もあると思うが、ビジョンに掲載されている事業は総花的でその考え方に結びついていないのではないかと。</p> <p>各地域どこも良くなるということとはありえない。やり方を変えて、利便性は落とさない。それを5Gといった新しい技術で補完するというのが正しい方向ではないかと。</p>	<p>該当箇所 全体、P40 ICT等新たな技術の活用による生活利便性向上に向けた取組</p> <p>市の取組は、市民の生活を守り、暮らしやすいまちにするとともに、地域の活性化にも取り組むもので、総花的で様々なものがあります。</p> <p>その中でも、今回まとめた定住自立圏共生ビジョンでは、例えば、「医療」であれば、地域の身近な診療所等で病気の治療が行えるとともに、入院や専門的な検査・治療、救急医療などは中心地域で対応する取組、「高齢者福祉」では、要介護状態になったとしても、各地域で暮らし続けるために必要な地域包括ケアシステムの構築に関する取組、「産業振興」では、各地域に仕事があるとともに、日常的な買い物ができる環境を維持・確保することに加え、中心地域が、経済を牽引する拠点としての役割を果たすための取組など、中心地域と周辺地域の役割分担により、市民生活に必要な諸機能を維持・確保するために必要な取組を選定し、盛り込んでおります。</p> <p>これらに加え、中心地域と周辺地域をつなぐ「公共交通」や、市全域に光ファイバー網が整備できている環境を活用した取組など、市の特徴を活かすとともに、市民満足度調査などからも市民ニーズが高い取組を整理しています。</p> <p>また、こうした取組を推進するツールとして活用できるものが、5GやAI、IoTなどの新しい技術であると考えており、これらの活用に向けた取組として、39ページに「ICT等新たな技術の活用による生活利便性向上に向けた取組」を盛り込んでいくところです。</p>	